

医の倫理を確固たるものにするために、『未来への提言』に即して過去の過ちに学び、旺盛に議論することを呼びかける

—2027年医学会総会に向けた私たちの提案の経過報告と今後の取り組みについて—

日本医学会は、2023年3月に創立120周年記念事業として発行した『未来への提言』で、「わが国も、これまで医学・医療の名において、人々に大きな犠牲を強いた過去を持つ。戦時中に石井機関と七三一部隊で中国人やロシア人等を対象とした非人道的な人体実験が広範に行われ、この研究には当時の日本の医学界をリードしていた大学教授たちが多く参加していた事実がある。」「私たちは、こうした過去の過ちに学び、将来にわたって非倫理的な状況が再び起こることのないよう、私たち自身の倫理を確固たるものとし、時には流れに抗うことも医学に携わる者の責務であることを改めて認識する。」と表明しました（第4章の1、72頁）。

「戦争と医の倫理」の検証を進める会では、2027年4月に大阪で開催される第32回日本医学会総会において、この画期的な記述の内容を具体化する取り組みを総会企画に盛り込むよう、働きかけてきました。

まず、2024年3月6日に、同総会の澤芳樹会頭に、本会のこれまでの取り組みをお知らせし、本会との懇談の場を設けていただけるよう、文書にてお願いしました。これに対し澤会頭からは5月14日付で、本会の趣旨には賛同するが、公務多忙のため懇談の場を設けることは難しい、という文書による回答がありました。

そこで本会では6月21日に会頭に対し、総会企画に盛り込むという本会の趣旨への賛同に感謝し、改めて、どのような形式の企画であれば可能か、文書で伺いました。これに対し会頭からは8月1日付で、関連する学術委員会および展示委員会の賛同が得られなかったため、総会としての取り組みは難しい、という回答文書が届きました。

これを受けて本会では9月17日に、困難な事情は了解したが、学術委員会および展示委員会でのどのような議論がなされた上で賛同が得られなかったのか、改めて文書にて伺いました。これに対し会頭からは10月11日付で、学術委員会および展示委員会での議論等の内容は内部事情のため開示できない、という回答文書が届きました。

以上のやりとりから、本会としては、2027年の医学会総会が自ら総会企画として具体化することは難しいと判断しました。

そこで本会は、「戦争と医の倫理」の検証と議論を進めることの重要性を考え、『未来への提言』の趣旨に沿って独自の取り組みを行うこととしました。一つは、2027年の医学会総会に向けて連続学習会を開催することとしました。2024年9月に第1回を、今年1月に第2回を開催し、今後も順次開催していく予定です。また、医学会総会が開催される直前の2027年3月頃に「戦争と医の倫理」をめぐるシンポジウムを大阪で開催する予定で準備を始めています。

引き続き、ご支援、ご協力をお願いします。

2025年1月25日

「戦争と医の倫理」の検証を進める会

呼びかけ人一同